

令和3年12月加賀市議会定例会

令和3年12月議会における所信(市長提出議案説明より抜粋)

令和3年11月25日

令和3年12月加賀市議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位には、ご出席を賜りありがとうございます。

はじめに、新型コロナウイルスに関する状況について申し上げます。

全国的に、「第五波」による感染者の増加が深刻な状況が続いておりましたが、9月以降は減少し、石川県内の感染状況も、今月12日にステージⅠに引き下げられ、一昨日現在で、県内の治療中の患者数が1年9か月ぶりにゼロとなりました。

市内の新規感染者も、先月20日以降、1か月以上ゼロが継続しており、「第五波」は収束した状態が続いております。

市民の皆様には、今後の到来が見込まれております「第六波」に備え、引き続き「三密の回避」や「マスクの着用」などの感染防止策を継続されるようお願い申し上げます。

ワクチン接種につきましては、市民の皆様のご理解と、市医師会を始めとする関係機関・関係団体の皆様のご協力によりまして、国や石川県の進捗をはるかに上回るペースで、希望された方々全員に2回の接種を終え、先週までに、全市民の78.2%の方々への接種を完了しております。

今後さらに、ワクチンによる予防効果を維持するために、3回目の接種を実施いたします。

2回目の接種を終え、概ね8か月を経過した18歳以上の方に対しまして、来月1日から順次行う予定であり、実施にあたり増額となる経費につきましては、今議会の補正予算として提案いたしております。

また、大きな打撃を受けておりました宿泊・飲食をはじめとする市内関連産業につきましても、「第五波」の収束に伴い回復の兆しが見えてまいりましたが、「第六波」の懸念が払拭されておらず、予断を許さない状況にあると考えております。

今後も、市内の経済動向を注視するとともに、先週発表されました国の経済対策とも歩調を合わせ、適時適切な施策の展開を図ってまいります。

さて、今議会は、私にとりまして、三期目の最初の定例会であります。そこで新たな4年間に向けた市政運営に対する所信を申し上げ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

二期目の市長就任以来、市政の最重要課題は一期目と同様に「人口減少」でありました。

そのため、県内トップクラスの子育て支援をはじめ、行政手続きのデジタル化、プログラミング教育の促進、スマートシティの推進などの先進的な施策を積極的に取り組んでまいりました。

しかしながら、現実はまだまだ人口減少に歯止めがかかったとは言い難い状況であります。三期目を与えられた私の最大の責務は、引き続き、人口減少を克服し地域の活性化をしていくことであります。

三期目の市政運営に当たりましては、これまで取り組んできた「成長戦略」の柱である「人材の育成」と「先端技術の導入」への投資を引き続き加速させることで、「消滅可能性都市」から「挑戦可能性都市」へと転換を図ってまいりたいと考えております。

それでは、新たに掲げました三期目の「4つのビジョン」に沿って、そのビジョンごとの主な施策についてご説明申し上げます。

ビジョン1は、「世界に通用する人財を育成し、先端技術に適応できる企業が集積するまち」の実現であります。

今後10年で指数関数的にテクノロジーが発達し社会が劇的に変化すると予想されます。こうした変化に適応できる人材や企業を集積するために、デジタル技術者やアーティストといったクリエイターが数多く集まる場を創り、新しい産業の集積につなげるため「世界のクリエイターが集うクリエイターハブ」の形成を目指します。

また、先端技術を中心に各分野のエキスパートを講師に迎え、起業家・クリエイター・デジタル人材を育成する（仮称）「デジタルカレッジ」の開設を目指します。

ビジョン2は、「人々の生活にワクワク感が満ちる未来型生活都市」の実現であります。

多くの若者や観光客が集い共感しながら、ショッピング等を楽しめる未来型の「商業エリア」の整備を目指します。

また、世界から集う高度人材等や子どもを育てる世帯が生活できる未来型の「居住エリア」の整備を目指します。

ビジョン3は、「自然・歴史・文化とテクノロジーが織りなす温泉共創地」の実現であります。

2024年の北陸新幹線加賀温泉駅開業を見据え、加賀市が誇る自然・歴史・文化に磨きをかけつつ、先端技術を活用して集客や滞在期間の長期化を図るために、検査技術、医療施設において世界トップレベルにある日本の人間ドックと湯治文化を組み合わせ「加賀温泉医療ツーリズム」でインバウンドの促進を図ります。

また、「北前船日本遺産」と「城下町大聖寺の歴史都市」の認定を機に、加賀市の歴史・文化の深みを未来へ引き継ぎ、先端技術を取り入れた「歴史・文化とスマートシティを体感できる体験観光」の推進を図ります。

ビジョン4は、「先端技術を活用して全世代に元気と福祉をとどけるまち」の実現であります。

人生百年時代において、先端技術を活用し、市民の一生涯を医療・福祉面でサポートし、市民が安心して暮らすために、健診・受診データ、介護データ等の市民一人ひとりの個人データを活用する「情報銀行の導入による一人ひとりの医療健康情報に基づく適切なサービス」の提供を目指します。

また、妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援と子どもの育ちを見通した継続的な支援を行い、子育て世代が安心して子どもを生み育てることができる環境整備を目指す「かがっこ応援プロジェクト」を更に充実させ「全国トップクラスの子育て」支援を目指します。

以上、所信の一端を申し上げましたが、かつて、大聖寺藩十万石は、九谷焼や山中漆器など新しい産業を生み出し育んできました。また、多くの優秀な学者や産業人材を輩出してきました。先人たちの新しいことに挑戦する精神は、今も変わらず脈々とこの地に受け継がれていると信じております。

この受け継がれた精神を呼び覚まし、加賀市が再び挑戦のまちとなるように、より一層、市民の皆様の声に謙虚に耳を傾けるとともに、議員各位との十分な議論を尽くし、ビジョンの実現に向け、今まで以上のスピード感を持って、市政運営に取り組みさせていただくことをお誓い申し上げます。

次に、マイナンバーカード普及の取組みが「デジタル社会推進賞デジタル大臣賞」を受賞したことについて申し上げます。

この賞は、デジタル庁がミッションとして掲げる「誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化」に貢献する個人やチームが表彰されるもので、先月15日に、大臣室において、「牧島 かれん」 デジタル大臣より授与されたものであります。

これは、マイナンバーカード窓口業務の改善や取得インセンティブ施策等により、交付率が9月1日現在で69.3パーセントと全国の市区の中で第1位であることが評価されたものであり、全国の自治体では唯一の受賞であります。

この受賞を励みとし、更なる行政のデジタル化に邁進してまいります。

次に、加賀ライズタウン構想について申し上げます。

先ほど所信のところで申し上げましたビジョン2の実現を目指すため、先月20日に、北陸電力株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、セイノーホールディングス株式会社及び株式会社DK-POWER（ディーケーパワー）とともに検討プロジェクトチームを発足いたしました。

併せて、プロジェクトチームでランドデザインを手掛けるJTQ株式会社の「谷川順

二」氏及びカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社蔦屋カンパニー執行役員の「須々木(すすき)将彦」氏をフェローとして委嘱いたしました。

谷川氏は、パルルーブル宮の国立装飾美術館で開催された展覧会、平城遷都1300年祭記念薬師寺ひかり絵巻など、多くの空間デザインに関するプロジェクトを手掛けております。

須々木氏は、東京表参道のGYRE（ジャイル）の再開発、東海地区最大級の商業施設Mozo Wondercity（モゾワンダーシティ）の再開発等、多くのプロジェクトに関する施設ブランディングなどを手掛けております。

こうした方々の知見やノウハウをいただきながら、地元関係者などとともに、若者の減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある地域を維持していくため、加賀温泉駅周辺に未来型の「商業エリア」と「居住エリア」の整備検討を進めてまいります。

そのための調査費用を今議会の補正予算として提案しておりますとともに、来月1日付けで加賀ライズタウン構想の実現を目指し推進本部を設置いたします。

一方、加賀市総合サービス株式会社における新電力部門の分社化につきましては、北陸電力株式会社と新会社設立などの検討を進めてまいります。